

■平成23年12月書道作品（書きぞめコンクール）要項（学校と公民館、市内各所へ配布）

学年別に テーマ 用紙は「書き初め用紙」（半切4/1） 字体は楷書でも行書でも可。

小学校 3年生「ことすが」 4年生「たまむし」 5年生「反古塚」 6年生「和訓栞」

中学生（全）「谷川士清」

清書には学年と名前をしっかりと書いた上、応募票には学校名・学年、住所・名前（読み仮名付き）を明記。

募集期間 1月5日～15日（当初50数点） 再延長期間～2月8日

提出先 谷川士清旧宅へ（郵送又は持参） 審査委員長 稲垣 無得先生

■表彰伝達式 2月26日

再募集の結果、全作品206点を全て稲垣先生に審査していただき、士清生誕日を記念して2月26日に実施。

入賞者には各学校宛に通知し、個人宛にも連絡していただいた。展示などの準備は24日（金）午後。

来賓として津市教育委員会教育長中野和代氏、審査委員長稲垣無得氏をお迎えし 旧宅で。

式次第

10時開会（9：30～受付） 入賞者のご家族も多数来られ、旧宅は障子も外してぎっしり満員。

挨拶 馬場幸子代表「士清は漢学・国学とともに医者もこなしていた偉大な方だったが、習字も良くされ、納所町の神宮寺に寄進されていた「36歌仙の扁額」のうち、和歌の色紙形を明和7年庚寅（1770）当時の俳壇連中が士清（61歳）に頼んで書き直してもらったという記録があります。」（司会 別所勝副代表）

表彰式と講評

士清大賞・特選・入選は馬場代表から、津市長賞と津市教育長賞は中野教育長から授与された。

表彰後、中野教育長からもお言葉があり、稲垣審査委員長からは総合講評をいただいた。

「作品は、大変しっかり書けているものが多かったが、テーマをよく考え、名前もしっかり書き入れてから完成となる。」という言葉が印象に残った。

表彰式後、講話：「士清の少年時代」について（20分程度）

会員 佐野萬里子

少年時代の士清は、公介とか昇と名乗っていたが、5歳頃から漢字や漢学を父順端義章や福蔵寺の浩天和尚について勉強していた。この浩天和尚が（中御門天皇の御綸旨をいただくため）上京する時には「養順」として一行7名の一人として連れて行ってもらっている（13才）。また、漢方の古典的な和刻本『素問』・『靈樞』の最後のページの欄外には、「享保五庚子二月～同極月（＝12月）読終谷川養順十二才」と書き込みのある本が、皇學館大學に残っています。

平成24年度谷川士清書道コンクール入賞者

中学生の部

士清大賞	三重中学校	2年	小田 真義
津市長賞	西橋内中学校	1年	田端 瑞稀
津市教育長賞	セントヨゼフ女子学園	1年	溝口 彩水
特選	西橋内中学校	1年	田井 湧也
入選	セントヨゼフ女子学園	1年	上嶋明日花
		1年	井関小百合、2年 樋口 成美



中学生上位入賞者

小学生の部

士清大賞	新町小学校	4年	秦 朋花
津市長賞	〃	6年	小田りえこ
津市教育長賞	〃	5年	塩崎 真由
特選	西が丘小学校	3年	中川 陽菜、5年 細江 珠菜
	新町小学校	4年	田端 琴音
	北立誠小学校	6年	山守 直美
入選	西が丘小	3年	森口 翼、兼 佳乃、吉田 千夏
		4年	脇谷慎之介、田辺 萌、服部可奈子、沼田 夢月
		5年	若林 美有、山本あさひ、岡野 太郎
		6年	笠島 悠香
新町小	3年	杉山 円佳、佐野 愛実、4年 浅尾 綾香	
	5年	寺脇 俊太、本田 蒼空、6年 中嶋 梨乃、森島 彩音、浅尾 琴葉、吉岡 由愛	
養生小	3年	田中 蓮也、水谷 海成	



小学生上位入賞者